



第73回都市計画全国大会(群馬大会)

第73回都市計画全国大会運営事務局(群馬県 県土整備部 都市計画課)

令和3年10月28日(木)にGメッセ群馬をオペレーション会場として、オンラインにて「第73回都市計画全国大会(群馬大会)」(主催：公益財団法人都市計画協会、後援：国土交通省、協賛：群馬県・高崎市・群馬県都市計画協会)が開催されました。本大会の群馬県での開催は第36回大会(昭和59年)以来37年ぶりであり、初めてのオンライン開催となりました。

大会では、国土交通省による主報告や記念講演、部会等が行われました。また、開催県内の優れた都市計画事業を実施した市町村を表彰する都市計画協会会長賞も紹介されました。

■ 部会

以下の3つのテーマについて部会を開催し、事例報告や意見交換を行いました。各部会には、コメンテーターとして国土交通省都市局の方にもご参加いただき、専門的知見からご意見をいただきました。また、部会後の全体会議では各部会長から部会内容の報告を行いました。

○第1部会『ウォークブル、ニューノーマルなまちづくり』

多くの都市では人口減少や少子高齢化により地域の活力が低下し、都市の魅力向上やまちなかのにぎわい創出が課題となっています。そこで、前橋市市街地整備課の瀬瀬副参事、岡崎市都市施設課の中川係長、福井市都市戦略部の牧野副理事の3名からの取組事例報告を通じて、「居心地がよく歩きたくなる」ウォークブルな空間の形成や新型コロナウイルスを契機としたオープンスペースの充実など、ニューノーマルなまちづくりについて意見交換を行いました。



前橋市 瀬瀬副参事



甘楽町 土屋主事

○第2部会『歴史的風致の形成によるまちづくり』

地域を代表する歴史的な建造物やまちなみを活かしたまちづくりは、優れた景観の保全や地域活性化につながります。そこで、甘楽町建設課の土屋主事、内子町町並・地域振興課の西岡係長、熊本市都市デザイン課の木下主査の3名からの取組事例報告を通じて、地域の特色を活かした歴史的風致の形成によるまちづくりについて意見交換を行いました。



館林市 遠藤技師

○第3部会『防災・減災を主流化したコンパクトなまちづくり』

近年、頻発化・激化する自然災害への対応と持続可能で魅力あるまちづくりの両立が喫緊の課題となっています。そこで、館林市都市計画課の遠藤技師、倉敷市都市計画課の阿部課長補佐、久留米市都市計画課の松尾主査の3名からの取組事例報告を通じて、防災・減災を主流化した安全でコンパクトなまちづくりについて意見交換を行いました。



部会長報告



事例報告(オンライン配信)



■ 記念講演「ポストコロナの都市政策」

コロナ禍により人々のライフスタイルや価値観が大きく変化する中で、ポストコロナを見据えた都市政策のあり方を考える必要があることから、「ポストコロナの都市政策」と題して明治大学政治経済学部野澤千絵教授にご講演いただきました。

講演では、コロナの影響でテレワークなどの働き方が普及し、二地域居住などのニーズが顕在化してきている一方、大都市への転入は止まることはなく、対面を通じたクリエイティブな議論や多様な交流など大都市でしかできないことが明確になったことなどをご説明いただきました。また、そのような背景を踏まえて、大都市の課題として、都心が住宅地化してしまうこと

や、地方の課題として、非線引き区域での宅地開発によるまちの低密拡散などが挙げられ、これからの「まちのまとまり」を考えた土地利用コントロールの重要性について、先進事例を紹介しつつ、ご説明いただきました。

野澤教授、貴重なご講演ありがとうございました。



明治大学 野澤教授

■ 都市計画協会会長賞

都市計画協会会長賞は、都市計画全国大会を開催する県内の市町村を対象として、都市計画に関して優れた計画立案を行った市町村、都市計画事業等の実施について優れた工夫又は顕著な実績を残した市町村を表彰するものです。本大会では、前橋市、高崎市、甘楽町の3市町が受賞されました。

○前橋市

～官民が一体となった再開発による魅力あるまちづくり～

前橋市では、中心市街地への都市機能誘導を図るため、立地適正化計画の策定による積極的な都市機能の誘導と事業の促進を図ることとしています。また、JR前橋駅北口において駅前の新たなランドマークとなる複合施設を市街地再開発事業として進めるとともに、民間と連携した公共空間の活用など様々な施策を展開しています。官民が一体となってまちづくりを進めるこれらの取組が、魅力ある中心市街地の形成に寄与するものであると評価されました。



JR前橋駅北口地区市街地再開発事業(前橋市)

○高崎市

～広域交通拠点である高崎駅周辺を中心とした交流創造都市づくり～

高崎市では、広域交通の拠点性を活かし、高崎駅周辺において、高崎芸術劇場や高崎アリーナなどの大規模集客施設の整備をはじめ、回遊性を高める都市基盤の整備やまちなか居住の推進などの取組をバランス良く進めてきました。その成果として、まちなかの歩行者通行量が大幅に増え、中心市街地の人口が増加しており、交流創造都市の実現につながっています。都市の価値を高める様々な取組が、持続可能な都市の発展に寄与するものであると評価されました。



高崎芸術劇場(高崎市)

○甘楽町

～「歴史まちづくり法」に基づくまちづくり～

甘楽町では、歴史的風致維持向上計画に基づき、都市再生整備計画事業等の推進や、歴史的建造物等を一体的に保存・活用する取組を町全体で進めています。事業で整備された歴史的建造物等はイベント等で積極的に活用し、町の歴史や風致に関する啓発・情報発信を行っています。歴史的・文化的資産を守り、良好な景観の保全に努めるとともに、その活用を図る取組が、活力と賑わいのある魅力あるまちづくりに寄与するものであると評価されました。



楽山園(甘楽町)